

新春



座談会

「ボランティア活動ははじめの一步」

新年を迎え、気持ちを新たに何かを始めたい方もいるかもしれません。今回は、ボランティア活動を始めたきっかけや、ボランティアを始めた人への想いを市内でボランティア活動を行っているお二人と、社会福祉協議会の玉野真永会長が語り合いました。

○ボランティア活動を始めたきっかけは？

玉野 最初に、お二人の経歴を教えてください。

木村 私は南足柄市の生まれです。子ども向けの英語塾を運営し、英会話を教えています。

金盛 私の生まれは北海道で、現在は市内に住んでいます。身体のことに興味があり、大学卒業後に県内の



地域で転倒予防の講師をする金盛さん

「やってみたい」を

接骨院に就職し、現在は独立して、機能訓練特化型のデイサービスを運営しています。

玉野 お二人とも、人と関わるお仕事ですね。なぜ、ボランティア活動を始めたのでしょうか。

木村 自分自身が50歳近くになった時、残りの人生の時間を考え、「地域の方と一緒に何かできたらな」と思うようになりました。そのようなとき、介護予防サポーターが行う体操に出会い、研修を受けてサポーターの仲間に入れてもらったことが最初です。

和田河原の地域福祉会では月に一度、体操会を行っているのですが、「こういった活動が家の近くでもできるといいな」と思うようになりました。そこで家の近くの公園でラジオ体操を始めました。ラジオ体操なら、み

んな出来ます。体を動かした後にはお喋りの時間も設け、楽しい時間が過ごせると思いました。

玉野 顔見知りになる、声をかけられる間柄になることは良いことですね。金盛さんはいかがですか。

金盛 以前、南足柄市は脳卒中の死亡率が高い時期がありました。そこで、介護やリハビリ職の4、5人の仲間と「リハビリが必要な病気になる前に、自分たちの知識を活かして地域で予防活動が出来ないか」と話しあったことが始まりです。社協に相談し、ボランティアとして登録後、出前講座を始めました。

玉野 お二人とも素晴らしい行動力ですね。

木村 自分の中で秘めていないで、体操を始めたいと、近所の人に相談しました。「それはありだね」とか「ラジオのボリウムと時間に注意した方がよい

金盛智也さん

市内飯沢在住。市内狩野にて、合同会社とれさぼを経営。介護職員で構成された団体「介護のチカラで南足柄を一番にする会NEXT10」のメンバーとして、地域福祉会や小中学校の福祉教育で転倒予防に関する講義を行っている。

